

４・２８「３Ｒイニシアティブ市民会議」集会アピール

私たちは、世界の国々が３Ｒの取り組みを進めるため、「３Ｒイニシアティブ閣僚会合」を開催したことについて、開催国の市民として成果を期待しています。

「３Ｒイニシアティブ市民会議」の事例報告でも、ドイツやフランス、韓国など、それぞれの国が真剣に、容器包装の３Ｒに取り組んでいるようすを、身近に学ぶことができました。先進各国の市民、事業者、行政の真摯な努力も伝わってきました。

ところが、閣僚会合を主催している日本においては、とりわけ容器包装の３Ｒの取り組みが不十分で、優先すべきリユースは衰退し、税負担によるリサイクル収集が続けられています。

全国から 215 の団体、180 の個人が参加する、私たち「容器包装リサイクル法の改正を求める全国ネットワーク」では、このようなルールを定めた日本の容器包装リサイクル法を改正し、『拡大生産者責任を徹底してリサイクルの費用を製品の価格に含めること、より一層リデュース・リユースを優先すること』を求めています。

このことは、21 世紀における日本の環境ビジョンを定めた、循環型社会形成推進基本法の精神からも当然です。

世界レベルで持続可能な 3R 社会を目指す「３Ｒイニシアティブ閣僚会合」に対しては、『拡大生産者責任の徹底を国際的合意として宣言し、先進各国の環境政策を高いレベルで統一し、より一層の 3R を推進すること』を提案します。

開催国の日本政府に対しては、このような『国際的合意形成のためのイニシアティブを発揮すること』を期待し、環境先進国の一員として、『容器包装リサイクル法を見直し拡大生産者責任を徹底すること』を求めます。

最後に、私たちは、拡大生産者責任の徹底という、事業者と消費者が受益者負担するルールを実現することで、これまで以上に事業者と消費者が力を合わせ、持続可能な 3R 社会を目指すことをアピールします。

４・２８「３Ｒイニシアティブ市民会議」参加者一同